

「研究データ利活用協議会」 活動の紹介

「研究データ利活用協議会」 会長
武田 英明

研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

「研究データ利活用協議会」、Research Data Utilization Forum (RDUF)

【目的】・研究データ利活用に関する国内外の事例の共有などにより、我が国における研究データ利活用を推進することに寄与。

【経緯】・ジャパンリンクセンターで行った「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」(2014年10月～2015年10月)にて分野を横断した研究データ利活用の担い手が集まった。
・データ利活用に係る議論をさらに促進するため、2016年6月に「研究データ利活用協議会」設立。

【会長】武田英明(国立情報学研究所 教授) 【副会長】村山泰啓(情報通信研究機構)

【機関参加】

JST NIMS NII NDL
NICT (+随時募集)

【個人参加】

(+随時募集)

【事務局】

ジャパンリンクセンター
事務局

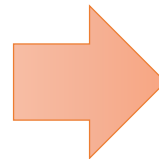
*「機関参加」の機関が、分担して下記ミーティング等を自律的に企画・運営

【実施内容】

研究会 (年3～4回程度)

MLを介した情報交換 (随時)

報告会 (年1回程度)



一般の研究データ関係者

オープンデータのマインド醸成

政策立案担当者

国の政策への反映



※2016/07/26にキックオフミーティング開催

「研究データ利活用協議会」のメンバーシップ

会費：	無料（活動に伴う交通費等は、自己負担。）
入会形態：	「機関参加」もしくは「個人参加」
入会の要件：	■「機関参加」の場合 ・持ち回りで「研究会」や「報告会」の企画、運営をできる。 ・「研究データ利活用協議会」の会員である旨を公表することに同意する。 ■「個人参加」の場合 ・研究データの利活用に興味があること。

入会すると、メーリングリストを介して様々な情報を得ることができます。

会員一覧（平成29年6月23日時点）

【機関参加】

- ・ 科学技術振興機構
- ・ 物質・材料研究機構
- ・ 国立情報学研究所
- ・ 国立国会図書館
- ・ 情報通信研究機構
- ・ 千葉大学附属図書館/
アカデミック・リンク・センター

【個人参加】

36人

会員リストは、以下で公開中！

http://japanlinkcenter.org/rduf/doc/JaLC_rduf_member.pdf

平成28年度の活動実績

項番	活動	開催日時	担当
1	公開キックオフミーティング	7月25日（月） 14:00-17:00	JST
2	研究会（第1回） （RDA Plenary 8 Meeting 等参加報告）	10月3日（月） 14:00-17:30	NDL
3	研究会（第2回） （第2回SPARC Japanセミナー 2016との共催）	10月26日（水） 13:00-17:00	NII
4	公開シンポジウム（サイエンスアゴラ内） 「研究データの利活用の未来－オープンサイエンスの実現手段－」	11月4日（金） 13:30-15:00	JST
5	（「第1回CODHセミナー Big Data and Digital Humanities」後援）	1月23日（月）	NII
6	研究会（第3回） 「科学データ研究会・WDS国内シンポジウム（第6回）」との共催	3月9日（木）10日（金）	NICT

<RDUFイベント参加で得られる情報>

①

国際動向

「研究データ利活用協議会」公開キックオフミーティング(2016年7月25日開催)

研究データ利用のための コミュニティづくり、国際動向

村山泰啓氏（情報通信研究機構）

「研究データ共有によるイノベーションの創出 ～第8回RDA総会等の国際議論を踏まえて～」 (2016年10月3日開催)

第8回RDA総会参加報告

蔵川圭氏（国立情報学研究所特任准教授）

込山悠介氏（国立情報学研究所助教）

小賀坂康志氏（科学技術振興機構知識基盤情報部長）

田辺浩介氏（物質・材料研究機構技術開発・共用部門科学情報プラットフォームエンジニア）

山口聡氏（国立国会図書館電子情報部電子情報企画課）

Digital Infrastructures for Research 2016参加報告（2016年10月3日開催）

山地一禎氏（国立情報学研究所准教授）

<RDUFイベント参加で得られる情報>

② 様々な分野の事例

「研究データ利活用協議会」公開キックオフミーティング(2016年7月25日開催)

研究データシェアリングの実現に向けた取組方針について

小賀坂康志氏（科学技術振興機構）

研究データ利活用のためのNIIの取り組み

山地一禎氏（国立情報学研究所）

地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム DIASプロジェクトの紹介

北本朝展氏（国立情報学研究所）

国立国会図書館の取組～知識インフラの深化～

伊東敦子氏（国立国会図書館）

研究データの利活用の未来－オープンサイエンスの実現手段－(2016年11月4日開催)

「水災害分野におけるデータ活用最前線－洪水予測からダム操作、都市浸水予測まで－」

渋尾欣弘氏（土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター 専門研究員、

政策研究大学院大学 連携准教授）

<RDUFイベント参加で得られる情報>

③ 分析報告

「研究データ利活用協議会」公開キックオフミーティング(2016年7月25日開催)

なぜ研究者個人が頼まれもしないのに研究データにDOIを振りたいのか
轟真市氏（物質・材料研究機構）

「研究データ共有によるイノベーションの創出 ～第8回RDA総会等の国際議論を踏まえて～」 (2016年10月3日開催)

「RDA総会他から見えてくる研究データ共有の現状と国の科学技術・学術政策への示唆」
林和弘氏（文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター上席研究官）

第2回 SPARC Japan セミナー2016（オープンアクセス・サミット2016）

「研究データオープン化推進に向けて：インセンティブとデータマネジメント」（2016年10月26日開催）

「医学生物学分野におけるデータのオープン化とそのインセンティブ」
仲里 猛留氏（情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター）

「日本古写真画像データのオープン化と大学図書館の役割」
下田 研一氏（長崎大学附属図書館）



RDUF平成29年度の活動計画

研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

1. 平成29年度の活動方針

（「研究データ利活用協議会」運営委員会（平成29年3月9日開催）決定）

- ① 日本版RDAとしての位置づけを獲得できるコミュニティを醸成するため、様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。
- ② 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。
- ③ 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

2. 平成29年度の活動計画

平成29年度は、次の活動を重点的に行います。

- ① 公開イベントの開催 （活動方針の「①」に対応）
- ② 小委員会の開催 （活動方針の「②」に対応）
- ③ 普及・広報の強化 （活動方針の「③」に対応）

① 公開イベントの開催

たとえば、次のような公開イベントを開催します。

- RDUF総会、公開シンポジウム
- 人文系のデータ利活用に関する公開シンポジウム
- その他、講演会

＊本日の公開シンポジウムにご出席いただいた方には、イベント等の案内をお送りします。ぜひ、ご参加ください。

② 小委員会の開催

平成29年度からは特定のトピックスについて議論を深めるための小委員会制度を創設します。

小委員会の例として、

- ・「研究データポリシー小委員会」、
- ・「PID小委員会」、
- ・「研究データアーカイビング小委員会」

などのようなものを考えています。

本日公開シンポジウムの最後に、グループディスカッションを実施します。その中から、小委員会が立ち上がることを期待しています！

③ 普及・広報の強化

研究データ利活用の普及促進や、分野の垣根を越えた情報共有を行うため、次の取組を行います。

- ・ 前述の「①公開イベントの開催」
- ・ 平成29年度より新設したRDUF webサイト、各種SNSを用いた情報発信
- ・ 各種イベントでのブース出展

＊会員の方には、メーリングリストを介して各種イベントのご案内を差し上げます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

研究データ利活用協議会」 (RDUF) 入会のご案内

RDUFへ参加しませんか！

「個人参加」と「機関参加」の二つの参加区分を用意しております。

本協議会 (RDUF) に「個人参加」として参加すると、関連研究会などの情報をメールでお届けします。

オープンサイエンスの議論でも重要視されるデータ共有・利活用の議論に参加しませんか？

参加は無料、とくに義務などありません。

=> 入会はオンラインで簡単です！

■ 入会・詳細はこちらから

<https://japanlinkcenter.org/rduf/about/index.html>

